

今に生きる言葉

令和2年 11月16日(月) 6校時 1年2組教室 1年2組 男子20名 女子15名

1 単元について

- 本単元は中学校学習指導要領第一学年の【知識及び技能】(3) 我が国の言語文化に関する事項の内容に基づき設定した。中学校学習指導要領には以下のように記されている。

(3) イ 古典には様々な種類の作品があることを知ること。

(1) 単元観

漢文は、日本の古典を形成する一つの柱として、古くから重要な役割を果たしてきた。奈良・平安期の漢詩文、中世の五山文学、江戸期の儒学などは、それぞれの時代・社会において尊重され、ことに学問、教養の面で大きな働きをしてきた。本単元で扱う故事成語は、古典であると同様に、今も生活の中で使われている言葉の一つである。学習を通して、故事成語の意味や由来を正しく理解すると共に、故事成語が自分たちにとって身近な言葉であるという認識を持たせるようにしたい。

(2) 生徒観

一学期末に授業に対するアンケートを実施したところ、「国語の授業は好きだ」と答えた生徒が82%、「国語の授業はよくわかる・よくできる」と答えた生徒が88%と高水準であった。また、授業では積極的に発言する生徒が多く、学習意欲は高いように思われる。しかし、「蓬萊の玉の枝」の授業の振り返りシートでは、古典を学ぶ意味が分からないといった記述が見られた。このことから、古典と自分の生活を結び付けて考えることができていない生徒がいることが分かる。また、他の生徒の発言に対して強く批判するような意見が出ることもあり、共感的人間関係を築くことが課題である。

(3) 指導観

シンキングタイムについて

生徒の古典への関心を大切にし、故事成語を自分たちの生活と結び付けて考えることができる姿を目指す。発表を聞く際には評価シートを用いてほかのグループの発表を評価させることで、発表を聞くときの視点を養う。加えて、発表する側と聞く側の両方ともに、発表の際のルールを十分に確認してから活動に臨み、共感的人間関係が築かれるよう心掛ける。

(4) 単元の目標

- ・ 故事成語について基礎知識をもち、それぞれの意味や由来を捉える。
- ・ 自身の生活を振り返らせ、故事成語を結びつけて考える。

2 単元の評価規準

観点	関心・意欲・態度	【知識及び技能】 (3) 我が国の言語文化に関する事項	【思考力、判断力、表現力】 「B 書くこと」	【思考力、判断力、表現力】 「C 読むこと」
評価規準	・ 故事成語とはどのような言葉かということと、それぞれの由来を理解し、日常生活と結びつけて考えている。	・ 古典には様々な種類の作品があることを知っている。	・ 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。

3 指導計画（4時間）

次	学習活動	評価規準 【観点】（評価方法）
一	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「今に生きる言葉」を読み、内容を理解する。矛盾の言葉の意味や由来をおさえる。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「矛盾」を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(観察・発表・ノート)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 【単元を貫く課題】 故事成語の意味が正しく伝わる四コママンガを描こう </div>	
二	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「矛盾」以外の故事成語の意味とその由来を確認し、四コママンガの下書きをする。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 故事成語を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(観察・発表・ノート)
三	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四コママンガを完成させ、発表原稿を作成する。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(観察・発表原稿)
四	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班の中で四コママンガの発表を行い、相互に評価する。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(観察・発表・評価シート)

4 本時の展開（4／4時間）

(1) 本時の目標

- ・ 故事成語の意味を正しく理解し、四コママンガの発表を通して伝えることができている。

(2) 観点別評価規準

- ・ 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。【B 書くこと】

(3) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆ 努力を要する 状況と判断した生徒の指導の手立て	評価基準 (評価方法)
導入 5分	1 前時のふり返しをする ○これまでの活動をふり返る。	◇故事成語は、日常生活の中でも多く使われるということを確認する。	
展開 40分	2 本時のめあてを確認する 本時のねらい：四こまマンガの発表を行い、故事成語の意味を正しく伝える。 T) 四こまマンガの発表の練習をしよう。 ○発表原稿を用いて練習をする。 【個人】 瀬戸田シンキングタイム	◇発表原稿の修正や、発表の仕方の見直しを行い、故事成語の意味が正しく伝わる発表を目指す。 ◆机間をまわり、発表原稿の作成を支援する。	
終末 5分	3 振り返り ○学習を振り返って、まとめをする。	◇振り返りシートに振り返りを書かせる。	

本時のねらい：四こまマンガの発表を行い、故事成語の意味を正しく伝える。

T) 四こまマンガの発表の練習をしよう。

○発表原稿を用いて練習をする。
【個人】

瀬戸田シンキングタイム

◇発表原稿の修正や、発表の仕方の見直しを行い、故事成語の意味が正しく伝わる発表を目指す。
◆机間をまわり、発表原稿の作成を支援する。

T) 四こまマンガの発表をしよう。

○グループ内で発表をする。
○付箋をつけながら発表を聞く。
【小集団】

○クラス内で発表をする。
【全体】

◇故事成語の意味が正しく伝わっているかどうかを付箋に記入する。
◇正しく伝わらない場合は、どの点をどう直せば良いか付箋に記入する。
◇声の大きさや視線、姿勢に気をつけ、聞き手に伝わりやすい発表を心がける。
【自己決定】
◆発表を聞く時のルールを確認する。発表者の方を見て、うなずきなどの反応をしながら聞くこと。発表の内容を否定するような発言をしないこと。
【共感的人間関係】

・四こまマンガと発表原稿が、故事成語の意味を正しく伝えられるものになっている。(発表・四こまマンガの内容・発表原稿の記述)

T) 自分の考えをまとめよう。

○評価シートを基に、自分の四こまマンガと発表原稿を見直す。

◇評価シートを受けとり、自分の四こまマンガと発表原稿をどう改善すれば良いか考える。
【自己決定】